

女子部中等科・高等科

「学業報告会 運営グループ」

中村知子 鈴木雄紀 寺尾恵理子

2019年度の学業報告会は11月30日土曜日に記念講堂で開催した。中等科は、クラスで1つの教科の中からテーマを決めて取り組んだ。中等科1年「数学」、中等科2年「理科」、中等科3年「体操」の3教科で行なった。高等科は、学年の枠を超えて、各教科担任が提示したテーマや、自分たちが調べたいテーマを設定し、生徒達は、興味があるグループに属して学び、発表するというスタイルにした。報告会全体の運営は「学業報告会の運営」を勉強として担当する運営グループが行った。昼食は「一から考える昼食作り」のグループが用意した。

I. 学業報告会当日の発表について

中等科は午前中に、全員参加でステージ発表を行った。クラスで教科の中にある大きなテーマを取り上げ、題材ごとにグループに分かれて調べまとめて学習を深めた。報告会当日に向けては、大きなテーマの流れを考えながら、発表を組み立て、ステージ練習を重ねた。一人ひとりが持っている力を出しあい、協力しながら学ぶことができた。また、ステージで発表し切れなかった一部をポスター展示とした。

高等科では、グループごとに発表の方法を考えてもらい、ステージ発表のグループと、ポスター発表のグループに分かれた。

ポスター発表を行ったグループは、休憩時や終了時にポスターセッションを行ない、直接お客様にプレゼンテーションを実施した。来校された保護者の方や、他のグループの生徒や先生との活発な意見交換ができていた。高等科は学年の枠を取り払うことで、年齢を超えた交流と学びあいを実感することが

出来た。

II. 学業報告会の運営

報告会全体の運営は「学業報告会の運営」を勉強として担当するグループで行った。主に広報、展示、掲示・食券、ステージ進行および全体を統括するリーダーの4部に分かれて高等科1年3人、高等科2年4人、高等科3年5人の、計12人で活動した。

1. 広報

パンフレットの表紙の制作では、美術の授業で制作した平面構成作品から学業報告会に相応しいと思うデザインを選び、表紙の絵柄とした。絵柄に合わせて、文字の色や字体、画面構成を考え校内で印刷まで行なった。

パンフレットの印刷と製本も担当した。パンフレットは800部制作し、来場してくださった方々や生徒へ配布した。

(作成したパンフレットをp 〇に記載)

2. 展示

ポスター展示は会場の一階後方および二階の展示会場を使って行なった。展示内容はポスターセッションのグループのポスター、ステージでの報告に関する資料のほか、また授業のノートや美術作品、裁縫作品など、通常授業の成果も展示コーナーを設けて展示した。動線を意識しつつ、出来るだけ多くのスペースを確保するよう努めた。

展示用のパネルはベニヤ板やダンボール製の建築模型用ハニカムボードを使用し、設営および展示作業から撤去まで、すべて自分たちの手で実施出来るよう工夫した。

3. 掲示・食券

掲示は実際に会場を歩いて、人の視線や動線を考え、必要なものを割り出し制作した。読みやすさを考え、字の大きさや字体、矢印の方向なども工夫した。当日配布した食券も、ふさわしい色やデザインを考え制作した。

4. ステージ進行

リーダー2人が担当した。各クラスの報告のわかりやすさや時間配分、ステージへの出入りや、表のスムーズな出し入れ、発表時の声の大きさ、立ち方や立ち位置、服装や照明マイクの調整など、様々なことに気を配り、全体を統括していた。

III. 運営を通しての学び

報告会は発表のみならず、全体の運営も大切な勉強のひとつである。裏方である運営であるが、興味のある生徒が複数集まった。担当分野は多岐に渡ったが、それぞれが得意とする分野と各々の持ち場で役

割を果たし、全体を支える力となることができた。

IV. まとめ

今年は中等科と高等科で異なる取り組み方で臨んだ。中等科では学年ごとに一つの教科について学び、発表内容を共に作り上げる事を通し、教科の内容を幅広く学びあうことが出来た。クラス全員で取り組むことで、互いに協力して作り上げる達成感を学んだ。一方高等科は、興味のあるテーマごとに集まって取り組むことで、一つのことを深く掘り下げ、集中して学ぶことができた。また学年の枠を超えて学びあい、おたがいに意見を交換しあったり、役割分担を行ったりすることができた。この中には報告会そのものの運営も含まれたが、そうした、無くてはならない裏方の働きによっても全体が支えられ、そのこと自体も学びとなっていた。学業報告会を通しての様々な学びの体験が、一人一人の中でこれからの学びの姿勢に繋がっていくことを期待したい。